

同窓生および 2009 年 3 月卒業生アンケートについて

1. 実施目的: 2009 年度自己点検・評価に係る検証材料として実施した。
2. 同窓生アンケート
 - 1) 対象者: 同窓会が把握する 2008 年 6 月卒業までの同窓生 15,613 名
 - 2) 実施時期: 2009 年 3 月～4 月
 - 3) 回収率: 5.4% (回答数 842 / 対象者 15,613)
 - 4) 集計結果:
 - ① 学部のみ卒業 (749 名)
 - ② 大学院のみ修了 (21 名)
 - ③ 学部卒業かつ大学院修了 (72 名)
 - 5) 上記②および③については、回答者数が少ないため、自己点検・評価作業においては、①学部のみ卒業した同窓生 749 名の集計結果を使用した。
3. 2009 年 3 月卒業生アンケート
 - 1) 対象者: 2009 年 3 月卒業者 504 名
 - 2) 実施時期: 2009 年 3 月卒業式直前
 - 3) 回収率: 73.6% (回答数 371 / 対象者 504)
4. 留意事項:
 - 1) 記述部分は省略し、数値のみとした。
 - 2) 各項目の%は、該当項目における有効回答者数に対しての割合とした。有効回答数は項目ごとに (N=xx) の形式で記載されている。

以上

同窓生アンケート

1) 学部のみ卒業

まずはあなた自身についてお答えください。

- 1 ICUに入学した年、および卒業または修了した年を西暦でご記入ください。（例：2003年3月卒業・修了、2003年6月卒業・修了→「2003」とご記入ください。学部と大学院の両方を卒業・修了の場合は両方に記入してください。

学 部	入 学	卒 業
1959以前	9.2%	4.0%
1960-1969	10.4%	12.6%
1970-1979	19.2%	12.3%
1980-1989	23.2%	23.4%
1990-1999	24.5%	23.6%
2000以降	13.5%	24.2%
n=719		n=732

- 2 該当する性別に○をつけてください。(n=739) a 男性 (36.0%) b 女性 (64.0%)

- 3 年齢をお答えください。（具体的に） (歳) (N=730)

20歳代 17.4%
30歳代 24.5%
40歳代 24.0%
50歳代 15.3%
60歳代 11.5%
70歳以上 7.3%

- 4 在籍していた学科・研究科にひとつ○をつけてください。学部で学科間専攻および転科した場合は卒業時の学科に○をつけてください。学部・大学院ともにICUに在籍した場合はそれぞれに○をつけてください。

【学部】 (N=739)

- a 人文科学科 (17.3%) d 語学科 (英語学科) (19.5%)
b 社会科学科 (32.3%) e 教育学科 (10.3%)
c 理学科 (自然科学科) (12.2%) f 国際関係学科 (8.4%)

【大学院】

- g 教育学研究科 i 行政学研究科
h 比較文化研究科 j 理学研究科

- 5 学部在籍された方にお尋ねします。どの入学試験で入学しましたか。（ひとつ○） (N=738)

- a 一般入学試験 78.60%
b 推薦入学試験（キリスト教学校教育同盟加盟校） 7.60%
c ICU高校推薦 7.20%
d 4月入学帰国生特別入学試験 0.40%
e 社会人特別入学試験 0.00%
f 9月入学書類選考 6.10%

- 6 現在の職業の業種をお答えください。(N=739)

- a 鉱業 (0.0%) f 卸・小売り (3.8%) k サービス (8.4%)
b 建設業 (0.4%) g 金融 (6.0%) l 団体 (3.4%)
c 製造 (9.5%) h 不動産 (0.8%) m 公務員 (2.4%)
d 電気・ガス・エネルギー (0.5%) i 教育 (16.8%) n その他 (15.4%)
e 運輸・通信 (3.1%) j マスコミ (5.4%) o 現在働いていない (22.3%) 不明1.8%

回答方法について

- 1 特に指示のない場合は、達成度、経験値などの程度について、**A～D**のいずれかに○をつけてください。質問項目に該当しない、忘れてしまったなどで答えられない場合は、**N**に○をつけてください。
A 非常にそう思う。 B まあまあそう思う。 C あまりそう思わない。 D 全くそう思わない。
N 答えられない。あてはまらない。
- 2 在学当時は存在しなかった項目についても、効果、影響などがあったと感じる項目には回答してください。
- 3 ICUにおいて大学院のみに在籍した方は、「理念」「図書館」「大学院」の項目についてお答えください。他の項目についても回答できるのであれば、お答えいただいても構いません。
- 4 大項目ごとのコメント欄にはご意見を自由にお書きください。

理 念

- Q1 ICUは日本で最初のリベラルアーツ大学として発足しました。リベラルアーツ教育の目指すものについて、どの程度実現されたか、お答えください。
- | | | |
|---|--------------------------------|---|
| 1 学問分野の垣根を超えた学びが重視されていた。(n=736) | A 43.5% B 49.0% C 6.5% D 1.0% | N |
| 2 少人数教育を受けることができた。(n=737) | A 74.8% B 23.7% C 1.5% D 0.0% | N |
| 3 自立的・自発的に学べた。(n=728) | A 41.8% B 48.9% C 8.5% D 0.8% | N |
| 4 文系・理系の枠にとらわれず、幅広い知識を身につけることができた。(n=731) | A 27.6% B 51.4% C 18.7% D 2.2% | N |
| 5 創造的な発想力が養われた。(n=725) | A 23.0% B 52.8% C 22.8% D 1.4% | N |
| 6 生涯学び続けるための基礎的能力が涵養された。(n=729) | A 39.2% B 49.8% C 9.6% D 1.4% | N |
| 7 問題を見つける力と解決する力が育まれた。(n=726) | A 25.8% B 55.4% C 18.0% D 0.8% | N |
| 8 真実を探るための批判的思考力が育まれた。(n=725) | A 33.1% B 49.8% C 16.3% D 0.8% | N |
| 9 既成概念にとらわれずに挑戦する柔軟な心を持つことができた。(n=725) | A 38.9% B 47.4% C 12.8% D 0.8% | N |
| 10 深い専門性と広い教養が身についた。(n=722) | A 7.6% B 46.5% C 39.5% D 6.4% | N |
| 11 自己を確立できた。(n=717) | A 24.7% B 54.1% C 18.5% D 2.6% | N |
| 12 社会的責任を踏まえた行動力を身につけることができた。(n=706) | A 18.0% B 51.7% C 27.8% D 2.5% | N |
| 13 学んだことを他者や社会のために役立てようと思うようになった。(n=709) | A 29.8% B 42.7% C 24.8% D 2.7% | N |
| 14 自分とは異なる考え、価値観を持つ他者を受け入れられるようになった。(n=718) | A 43.7% B 48.3% C 7.0% D 1.0% | N |
- Q2 ICUは創立以来、「I」(国際性)、「C」(キリスト教)、「U」(学問)の3つの使命を掲げ、その実現に努めてきました。それぞれについて、どの程度意識していたかをお答えください。
- | | | |
|--------------------|---------------------------------|---|
| 1 国際性への使命(n=735) | A 51.0% B 40.8% C 7.2% D 1.0% | N |
| 2 キリスト教への使命(n=722) | A 15.7% B 35.7% C 38.1% D 10.5% | N |
| 3 学問への使命(n=733) | A 26.7% B 55.7% C 15.8% D 1.8% | N |

カ リ キ ュ ラ ム

- Q3 ICUの一般教育は、総合的な視野に立って批判的に思考する力を身につけることを目的としています。したがって、「専門」の単なる入門講座ではなく、学問を総合的に見渡す視点から他の領域と関連付けて「専門」を深める一助となることを目指しています。一般教育で以下の項目について、どの程度効果があったかお答えください。
- | | | |
|-----------------------------|--------------------------------|---|
| 1 総合的な視野が身についた。(n=730) | A 34.8% B 55.3% C 9.0% D 0.8% | N |
| 2 複数の領域を関連付けることができた。(n=723) | A 25.4% B 49.4% C 23.5% D 1.7% | N |
| 3 専門を深めるのに役立った。(n=720) | A 9.0% B 38.3% C 47.2% D 5.4% | N |
- Q4 全新生必修の英語教育プログラム(現行のELP)、または日本語教育プログラム(現行のJLP)について、どの程度達成されたか、お答えください。(「ELP」は4月入学生対象の英語教育プログラムで、英語で開講される大学の授業が受講できるだけの英語運用能力を身につけることを目的としたもの。「JLP」は、9月入学生対象の日本語教育プログラム)
- | | | |
|--|--------------------------------|---|
| 1 ELP受講の場合は英語/JLP受講の場合は日本語による大学の授業を受講するのに十分な言語運用能力が身についた。(n=682) | A 21.0% B 56.0% C 19.8% D 3.2% | N |
| 2 ELP受講の場合は英語/JLP受講の場合は日本語による大学の授業を積極的に受講するようになった。(n=667) | A 17.1% B 37.9% C 37.5% D 7.5% | N |
- Q5 ICUでは専門を早期に固定せず、専修分野の選択にゆとりをもたせ、カリキュラムを柔軟にすることで総合的に学べるよう配慮しています。以下について、どの程度達成できたか、お答えください。
- | | | |
|----------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 複数の学問分野の授業を取ってから専門を決めた。(n=684) | A 25.7% B 38.3% C 26.9% D 9.1% | N |
| 2 広い領域から総合的に学ぶことができた。(n=716) | A 29.3% B 53.5% C 15.9% D 1.3% | N |
| 3 専門分野の知識や考え方が十分に身についた。(n=716) | A 8.4% B 40.9% C 44.1% D 6.6% | N |
- Q6 ICUのカリキュラムは時代に即した多彩な科目を開講するよう配慮されています。在学当時自分が履修したいと思うような科目がどの程度開講されていたか、お答えください。
- | | | |
|----------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 履修したいと思う一般教育科目が開講されていた。(n=719) | A 26.7% B 58.0% C 13.8% D 1.5% | N |
| 2 履修したいと思う専門科目が開講されていた。(n=721) | A 22.1% B 52.0% C 22.9% D 3.1% | N |
- Q7 特に思い出深い授業がありますか。それぞれについていずれかを選んでください。書ききれない場合はコメント欄をご利用下さい。
- | | | |
|-------------------|------------|------------|
| 1 語学プログラム (n=594) | a ない 35.0% | b ある 65.0% |
| 2 保健体育科目 (n=581) | a ない 54.4% | b ある 45.6% |

- 3 一般教育科目 (n=600) a ない 27.8% b ある 72.2%
 4 専門科目 (n=597) a ない 21.4% b ある 78.6%

Q8 「理念」のQ1にあるリベラルアーツ教育の目指すもの全般について、以下の科目が卒業後の生活や仕事にどの程度役立っているかをお答えください。

- | | | |
|------------------|--------------------------------|---|
| 1 語学プログラム(n=701) | A 52.9% B 37.1% C 8.1% D 1.9% | N |
| 2 保健体育科目(n=658) | A 4.7% B 29.3% C 47.4% D 18.5% | N |
| 3 一般教育科目 (n=711) | A 28.6% B 55.4% C 13.9% D 2.1% | N |
| 4 専門科目(n=706) | A 25.9% B 53.4% C 18.1% D 2.5% | N |

成績評価・履修指導・教育改善

Q9 ICUでは、学生の学習意欲や学習効果を高めるためにさまざまな制度を採用しています。それぞれの項目について、どの程度役立ったか、お答えください。

- | | | |
|---|---------------------------------|---|
| 1 GPA制度 (A=4点~E=0点として1単位あたりの平均得点を出す成績評価制度)は学習意欲を高めるのに役立った。(n=673) | A 30.5% B 45.3% C 20.2% D 4.0% | N |
| 2 学期ごとの標準履修単位数 (13 1/3単位) の設定は学習効果を高めるのに役立った。A 23.0% B 44.4% C 27.1% D 5.5% | | N |
| 3 成績不良者への退学勧告の制度から緊張感をもって学習に臨んだ。(退学勧告を受けなかった方もお答えください。)(n=602) | A 14.3% B 35.9% C 33.7% D 16.1% | N |

Q10 ICUの教員が果たすべき義務として最も重要とされている以下の項目について、どの程度達成されていると感じたか、お答えください。

- | | | |
|---|--------------------------------|---|
| 1 Critical thinkingと考える力を養成する授業を行っていた。(n=684) | A 29.4% B 53.4% C 15.4% D 1.8% | N |
| 2 Critical thinkingを使って研究を行っていた。(n=619) | A 18.7% B 50.6% C 28.3% D 2.4% | N |

Q11 ICUでは、授業の目的、学習目標、コースの内容、スケジュール、成績の評価方法などを学生と教員が互いに理解しあえるようにシラバス(講義要旨)の配付を促しています。どの程度役立ったか、お答えください。

- | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 シラバスは履修する科目の選択に役立った。(n=594) | A 40.7% B 45.5% C 12.1% D 1.7% | N |
| 2 シラバスは学習計画を立てるのに役立った。(n=592) | A 31.6% B 46.1% C 20.4% D 1.9% | N |

Q12 授業効果調査に参加したことのある方のみお答え下さい。ICUでの教育全体の質の向上を目的として、全てのコースで学生による授業評価を実施しており、その結果は「授業効果調査」として、学内ネットで公開されています。授業効果調査は以下の項目についてどの程度役立っていたか、お答えください。

- | | | |
|-----------------------|--------------------------------|---|
| 1 履修する科目の選択(n=153) | A 24.8% B 43.1% C 28.1% D 3.9% | N |
| 2 ICUの教育全体の質向上(n=152) | A 24.3% B 46.1% C 24.3% D 5.3% | N |

Q13 ICUでは、学問体系の枠組みに学生をはめ込むのではなく、自らの問題意識や関心に応じて自主的に学びながら、主体的・批判的に物事を考えることのできる、独立した自己を形成することを目指しています。それを支援するため、教員アドヴァイザーによる助言を受けられるアドヴァイザー制度が導入されています。以下の項目について、どの程度行われたか、また、どの程度達成されたか、お答えください。(「アドヴァイザー制度」とは、一人ひとりの学生に担当教員がつき、体系的な学びを導き、学生生活のさまざまな相談にものる制度)

- | | | |
|---|---------------------------------|---|
| 1 アドヴァイザー制度は学生にとって有益であると感じた。(n=712) | A 36.9% B 43.4% C 17.1% D 2.5% | N |
| 2 アドヴァイザーには会いたい時に会うことができた。(n=676) | A 27.4% B 42.3% C 25.7% D 4.6% | N |
| 3 修学に関する内容について、アドヴァイザーの助言・指導は全般的に役立った。(n=678) | A 16.7% B 44.1% C 32.7% D 6.5% | N |
| 4 学生生活に関する内容について、アドヴァイザーの助言・指導は全般的に役立った。A 12.0% B 33.6% C 43.1% D 11.3% | | N |
| 5 卒論指導に関して、アドヴァイザーのところに頻繁に相談に行った。(n=686) | A 22.3% B 28.9% C 33.1% D 15.7% | N |
| 6 特定の相談事項がなくても、アドヴァイザーのところを訪れた。(n=666) | A 7.4% B 12.6% C 40.4% D 39.6% | N |

国際性

Q14 英語による開講科目は4月入学生にとっては語学プログラムで習得した英語力を用いて、日英両語で学ぶというバイリンガリズムを実践する場であり、9月入学生にとっては語学プログラムと並行して自らの関心に応じて科目履修ができる場となっています。以下の項目についてどの程度達成されていたか、お答えください。

- | | | |
|---------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 英語で開講される科目が十分に用意されていた。(n=699) | A 25.9% B 49.9% C 21.0% D 3.1% | N |
|---------------------------------|--------------------------------|---|

*1991年以降に入学した4月入学生のみお答えください。

- | | | |
|---|--------------------------------|---|
| 2 卒業要件に英語で開講される科目の履修が含まれていることにより、大学の国際性への使命がよく理解できた。(n=263) | A 31.6% B 46.8% C 19.4% D 2.3% | N |
|---|--------------------------------|---|

*9月入学生のみお答えください。

3 日本語の学習をしながら英語で開講される科目を履修できることが、卒業までの履修計画に役立った。(n=34) A 29.4% B 41.2% C 14.7% D 14.7% N

Q15 海外英語研修（SEA）プログラム参加者のみお答えください。SEAプログラムでは異文化体験と生活の中で英語を学ぶことを目的としています。どの程度効果があったか、お答えください。

- | | | |
|---|--------------------------------|---|
| 1 英語圏で生活しながら学ぶことで英語が身についた。(n=113) | A 49.6% B 42.5% C 7.1% D 0.9% | N |
| 2 英語のコミュニケーション能力が高まった。(n=112) | A 57.1% B 34.8% C 8.0% D 0.0% | N |
| 3 英語の論文作成能力が高まった。(n=112) | A 13.4% B 29.5% C 50.9% D 6.3% | N |
| 4 異文化への理解が深まった。(n=113) | A 67.3% B 30.1% C 1.8% D 0.9% | N |
| 5 その後の履修計画、留学や進路に関わる計画、考え方に影響があった。(n=111) | A 51.4% B 27.9% C 18.0% D 2.7% | N |

Q16 ICUは人と学問における国際交流の実現を使命として掲げ、国際社会に貢献できる人材育成に努めています。また、交換留学・海外留学プログラムによって、異なる文化・教育背景をもつ学生がともに学ぶ国際的なキャンパスの実現を目指しています。これらのプログラムの影響がどの程度あったか、お答えください。

- | | | |
|--|---------------------------------|---|
| 1 これらのプログラムは国際性への使命を実現するのに十分なものだった。(n=648) | A 27.6% B 54.5% C 15.7% D 2.2% | N |
| 2 キャンパスでの留学生との交流により異文化への理解が深まった。(n=683) | A 27.1% B 42.2% C 23.9% D 6.90% | N |
- *以下の3から6は交換留学・海外留学プログラム参加者のみお答えください。
- | | | |
|--|--------------------------------|---|
| 3 留学先の選択肢が十分に用意されていた。(n=98) | A 40.8% B 44.9% C 12.2% D 2.0% | N |
| 4 国際性を身につけることができた。(n=100) | A 67.0% B 28.0% C 4.0% D 1.0% | N |
| 5 その後の履修計画、留学や進路などに関わる計画、考え方に影響があった。(n=98) | A 75.5% B 19.4% C 4.1% D 1.0% | N |
| 6 国際社会に貢献するための準備ができた。(n=97) | A 44.3% B 35.1% C 18.6% D 2.1% | N |

学 生 生 活

Q17 新入生オリエンテーションは新入生が大学生活全般を円滑に送ることができるように考えられています。この目的は、どの程度達成されたか、お答えください。（「新入生オリエンテーション」は、大学生活を始めるにあたって大学に親しませることを目的とした行事）

- | | | |
|--|--------------------------------|---|
| 1 大学生活を始めるにあたって必要な情報を得られた (n=673) | A 23.3% B 59.9% C 15.8% D 1.0% | N |
| 2 オリエンテーションを通じて大学生活において順調なスタートを切ることができた。 | A 23.8% B 55.4% C 18.7% D 2.1% | N |

Q18 新入生リトリート（新入生と教員の一泊研修）はICUの理念、カリキュラムなどを新入生に深く理解してもらうことや新入生と教員、新入生同士が親しく語り合う中から、ICUの学生としてのアイデンティティを獲得してもらうことを目的としています。参加することによって以下についてどの程度達成されたか、お答えください。

- | | | |
|--|--------------------------------|---|
| 1 リトリートにより、ICUに対する理解を深めることができた。(n=586) | A 24.2% B 49.8% C 23.7% D 2.2% | N |
| 2 新入生や教員と親しく語り合うことができた。(n=585) | A 37.6% B 45.3% C 14.4% D 2.7% | N |
| 3 その後の大学生活を送る上で有益だと感じた。(n=580) | A 28.6% B 44.8% C 22.6% D 4.0% | N |

Q19 キャリア形成・就職支援では、学生が自己の能力、適性や価値観を把握し、卒業後に進むべき道を選択する過程を支援することを目的としています。どの程度支援を受けられたと感じられたか、お答えください。

- | | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|---|
| 1 自己の能力、適性や価値観を把握する機会があった。(n=579) | A 5.7% B 25.7% C 50.1% D 18.5% | N |
| 2 キャリア形成について考える機会があった。(n=580) | A 7.9% B 26.0% C 47.2% D 18.8% | N |
| 3 就職活動を進めていく上でサポートを得られた。(n=565) | A 13.8% B 29.4% C 37.0% D 19.8% | N |

Q20 全人的成長を目指すリベラルアーツ教育では、人間形成の場として自主的に運営を行う課外活動への参加が望まれています。課外活動について、お答えください。

- | | | |
|----------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 サークル活動などの課外活動を活発におこなった。(n=697) | A 48.4% B 28.1% C 15.1% D 8.5% | N |
|----------------------------------|--------------------------------|---|
- *課外活動を行った方のみお答えください。
- | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|---|
| 2 課外活動を行ったことが、人間的成長につながった。(n=579) | A 57.2% B 33.5% C 8.1% D 1.2% | N |
|-----------------------------------|-------------------------------|---|

Q21 学生寮在住経験者のみお答え下さい。ICUでは、寮生活は大学の教育の一部と位置付けられています。そこでは共同生活を通じ、大学の一構成員、一社会人としての責任を自覚し、価値観や文化的背景の異なる他者に対して開かれた人間として成長することが期待されています。以下の項目について、どの程度の効果があったか、お答えください。

- | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 寮生活が勉学を進める上でプラスになった。(n=186) | A 44.1% B 32.3% C 21.0% D 2.7% | N |
| 2 他の学生と共同生活を行うことが人間的成長につながった。(n=187) | A 72.7% B 26.2% C 1.1% D 0.0% | N |
| 3 外国人留学生と共同生活することで国際的視野が広がった。(n=185) | A 52.4% B 37.8% C 9.2% D 0.5% | N |
| 4 寮に居住することが経済的な支援となった。(n=184) | A 56.5% B 31.5% C 10.3% D 1.6% | N |

Q22 大学を通じて経済的支援を受けた方のみお答え下さい。ICUでは、勉学意欲のある学生が経済的な理由で学業を妨げられないことがないよう各種の奨学金制度を設けています。どの程度達成されたか、お答えください。

- | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------|---|
| 1 学業を継続する上で本学の提供する経済的支援が役立った。(n=197) | A 72.1% B 21.8% C 4.6% D 1.5% | N |
|--------------------------------------|-------------------------------|---|

キリスト教

Q23 キリスト教の影響についてお答えください。

- 1 在学中に参加したことのある大学主催のキリスト教に関わる活動に○を付けてください。（複数可）（n=739）
- | | |
|----------------------------|--------|
| a 授業「キリスト教概論」 | 93.40% |
| b 授業（「キリスト教概論」以外） | 23.50% |
| c キリスト教週間 | 39.60% |
| d 宗務部主催ワークキャンプ、スタディーツアーなど。 | 10.80% |
| e 大学礼拝およびICU教会日曜礼拝 | 48.20% |
| f その他（具体的に：_____） | 9.90% |
- 2 上記の大学主催のキリスト教活動は卒業後の現在も生活に影響を与えている。（n=676） A 16.0% B 37.9% C 32.5% D 13.6% N
- 3 下記のいずれかの項目により、キリスト教に対する関心を深めたり、卒業後の生活においてキリスト教が影響を与えていると感じることはありますか。影響を与えた項目に○をつけてください。（複数可）（n=739）
- | | |
|-------------------------------|--------|
| a 教職員との交流 | 33.60% |
| b クリスチャンの学生との交流 | 29.40% |
| c 寮生活 | 7.60% |
| d 学生活動（聖書研究、読書会、クラブ活動など） | 11.50% |
| e その他（具体的に：_____） | 14.20% |
| f 関心を深めたり、影響を受けたと思ったりすることはない。 | 24.80% |
- 4 3でa～eに○をつけた方のみお答えください。どのような影響が差し支えない範囲でお答えください。
- （_____）

圖書館

Q24 図書館は学習・研究のために必要な環境を構築、提供することに努めています。図書館の施設・設備についてお答えください。

- | | | |
|--|--------------------------------|---|
| 1 開館日・開館時間が適切だった。(n=706) | A 34.8% B 52.4% C 10.5% D 2.3% | N |
| 2 快適に学習できるスペースが提供されていた。(n=715) | A 45.2% B 43.6% C 10.2% D 1.0% | N |
| *オスマー図書館が開館した2000年以降に在籍された方のみお答えください。 | | |
| 3 大学の設備として必要な機能を備えたパソコンが十分に用意されていた。(n=156) | A 28.8% B 42.9% C 24.4% D 3.8% | N |

*オスマー図書館が開館した2000年以降に在籍された方のみお答えください。

Q25 図書館の資料・情報についてお答えください。

- | | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 十分な質と量の図書や雑誌が備えられていた。(n=714) | A 24.9% B 56.4% C 16.9% D 1.7% | N |
| *オスマー図書館が開館した2000年以降に在籍された方のみお答えください。 | | |
| 2 必要なオンライン・データベースが利用できた。(n=147) | A 38.1% B 49.0% C 10.2% D 2.7% | N |
| 3 学外から利用できる電子情報が充実していた。(n=139) | A 17.3% B 38.8% C 35.3% D 8.6% | N |

*オスマー図書館が開館した2000年以降に在籍された方のみお答えください。

Q26 図書館のサービス（学習・研究支援）についてお答えください。

- | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 貸し出し冊数・期間が十分であった。(n=698) | A 38.8% B 51.3% C 8.7% D 1.1% | N |
| 2 職員によるサポートは役立った。(n=641) | A 27.5% B 48.2% C 21.2% D 3.1% | N |
| 3 利用者の意見を反映する制度が整っていた。(n=575) | A 14.3% B 48.0% C 32.0% D 5.7% | N |

その他

Q27 学部での4年間を総括してください。

- 1 自分の人生に大きな影響を与えた重要な4年間であった。(n=723) A 80.9% B 17.3% C 1.4% D 0.4% N

*1の質問でAまたはBを選んだ方のみお答えください。

- 2 それは主にどの面においてそのように感じましたか。該当するものに○をつけてください。(複数可) (n=739)
- | | |
|-----------------|--------|
| a 学問 | 73.60% |
| b クラブ・サークル活動 | 53.90% |
| c 学生生活・友人とのふれ合い | 81.10% |
| d 教員とのふれ合い | 41.70% |
| e 寮生活 | 19.10% |
| f その他(具体的に:) | 10.80% |

- 3 ICUで過ごした4年間の学生生活において重要な役割を果たしたと思う施設（環境）に○をつけてください。（複数可）（n=739）

a 本館	67.70%
b 図書館	66.80%
c オスマー図書館	12.60%
d N 館(理学館)	13.10%
e ILC(総合学習センター)	9.90%
f D館 (ディッフェンドルファー記念館)	46.00%
g 新D館	8.30%
h スポーツ・クラブハウス	24.20%
i 学食	60.80%
j 寮	34.00%
k ICU協会	22.90%
l バカ山 (本館前広場)	21.80%
m その他 (具体的に :)	11.10%

大 学 院

Q28 大学院に在籍した方のみお答えください。ICUの大学院では、学部で培った基礎の上に広い視野にたち、教員の個別指導のもと、専攻分野を研究します。以下の項目について、どの程度達成されたかについてお答えください。

1 少人数制により、丁寧かつ柔軟な指導が受けられた。	A	B	C	D	N
2 一人の研究指導教員だけではなく、多くの教授から指導を受けられる可能性があった。	A	B	C	D	N
3 研究領域は、人文、社会、自然科学などの伝統的分野から、学際的領域さらには新領域まで選択することが可能だった。	A	B	C	D	N
4 多様な国籍・背景をもった教職員、学生と学ぶことができた。	A	B	C	D	N
5 世界に通用する研究成果が上げられた。	A	B	C	D	N

＊ご協力ありがとうございました。

同窓生アンケート

2) 大学院のみ卒業

まずはあなた自身についてお答えください。

- 1 ICUに入学した年、および卒業または修了した年を西暦でご記入ください。（例：2003年3月卒業・修了、2003年6月卒業・修了→「2003」とご記入ください。学部と大学院の両方を卒業・修了の場合は両方に記入してください。

大学院	入学	卒業
1959以前	4.8%	0.0%
1960-1969	9.5%	9.5%
1970-1979	19.0%	19.0%
1980-1989	42.9%	33.3%
1990-1999	14.3%	23.8%
2000以降	9.5%	14.3%
n=21	n=21	

- 2 該当する性別に○をつけてください。(n=21) a 男性 (47.6%) b 女性 (52.4%)

- 3 年齢をお答えください。（具体的に） (歳) (N=20)

20歳代 0.0%
30歳代 20.0%
40歳代 40.0%
50歳代 25.0%
60歳代 5.0%
70歳以上 10.0%

- 4 在籍していた学科・研究科にひとつ○をつけてください。学部で学科間専攻および転科した場合は卒業時の学科に○をつけてください。学部・大学院ともにICUに在籍した場合はそれぞれに○をつけてください。

【大学院】(N=21)

- g 教育学研究科 (61.9%) i 行政学研究科 (19.0%)
h 比較文化研究科 (19.0%) j 理学研究科 (0.0%)

- 6 現在の職業の業種をお答えください。(N=82)

- a 鉱業 (0.0%) f 卸・小売り (0.0%) k サービス (0.0%)
b 建設業 (0.0%) g 金融 (4.8%) l 団体 (0.0%)
c 製造 (0.0%) h 不動産 (0.0%) m 公務員 (0.0%)
d 電気・ガス・エネルギー (0.0%) i 教育 (81.0%) n その他(4.8%)
e 運輸・通信 (0.0%) j マスコミ (0.0%) o 現在働いていない (9.5%)

回答方法について

- 1 特に指示のない場合は、達成度、経験値などの程度について、**A～D**のいずれかに○をつけてください。質問項目に該当しない、忘れてしまったなどで答えられない場合は、**N**に○をつけてください。
A 非常にそう思う。 B まあまあそう思う。 C あまりそう思わない。 D 全くそう思わない。
N 答えられない。あてはまらない。
- 2 在学当時は存在しなかった項目についても、効果、影響などがあったと感じる項目には回答してください。
- 3 ICUにおいて大学院のみに在籍した方は、「理念」「図書館」「大学院」の項目についてお答えください。他の項目についても回答できるのであれば、お答えいただいても構いません。
- 4 大項目ごとのコメント欄にはご意見を自由にお書きください。

理 念

- Q1 ICUは日本で最初のリベラルアーツ大学として発足しました。リベラルアーツ教育の目指すものについて、どの程度実現されたか、お答えください。
- | | | |
|--|--------------------------------|---|
| 1 学問分野の垣根を超えた学びが重視されていた。(n=19) | A 47.4% B 36.8% C 15.8% D 0.0% | N |
| 2 少人数教育を受けることができた。(n=19) | A 94.7% B 5.3% C 0.0% D 0.0% | N |
| 3 自立的・自発的に学べた。(n=18) | A 55.6% B 44.4% C 0.0% D 0.0% | N |
| 4 文系・理系の枠にとらわれず、幅広い知識を身につけることができた。(n=17) | A 29.4% B 23.5% C 47.1% D 0.0% | N |

5 創造的な発想力が養われた。(n=19)	A 52.6% B 36.8% C 10.5% D 0.0%	N
6 生涯学び続けるための基礎的能力が涵養された。(n=19)	A 26.3% B 63.2% C 5.3% D 5.3%	N
7 問題を見つける力と解決する力が育まれた。(n=19)	A 42.1% B 36.8% C 15.8% D 5.3%	N
8 真実を探るための批判的思考力が育まれた。(n=19)	A 36.8% B 47.4% C 10.5% D 5.3%	N
9 既存概念にとらわれずに挑戦する柔軟な心を持つことができた。(n=18)	A 44.4% B 38.9% C 16.7% D 0.0%	N
10 深い専門性と広い教養が身についた。(n=19)	A 31.6% B 52.6% C 10.5% D 5.3%	N
11 自己を確立できた。(n=18)	A 33.3% B 44.4% C 16.7% D 5.6%	N
12 社会的責任を踏まえた行動力を身につけることができた。(n=17)	A 17.6% B 47.1% C 29.4% D 5.9%	N
13 学んだことを他者や社会のために役立てようと考えようになった。(n=18)	A 33.3% B 44.4% C 16.7% D 5.6%	N
14 自分とは異なる考え、価値観を持つ他者を受け入れられるようになった。(n=18)	A 50.0% B 38.9% C 11.1% D 0.0%	N

Q2 ICUは創立以来、「I」(国際性)、「C」(キリスト教)、「U」(学問)の3つの使命を掲げ、その実現に努めてきました。それぞれについて、どの程度意識していたかをお答えください。		
1 国際性への使命(n=19)	A 47.4% B 36.8% C 5.3% D 10.5%	N
2 キリスト教への使命(n=18)	A 22.2% B 44.4% C 16.7% D 16.7%	N
3 学問への使命(n=20)	A 40.0% B 50.0% C 0.0% D 10.0%	N

キ リ ス ト 教

Q23 キリスト教の影響についてお答えください。		
1 在学中に参加したことのある大学主催のキリスト教に関わる活動に○を付けてください。(複数可) (n=21)		
a 授業「キリスト教概論」	0.00%	
b 授業(「キリスト教概論」以外)	0.00%	
c キリスト教週間	19.00%	
d 宗務部主催ワークキャンプ、スタディーツアーなど。	0.00%	
e 大学礼拝およびICU教会日曜礼拝	19.00%	
f その他(具体的に:)	4.80%	
2 上記の大学主催のキリスト教活動は卒業後の現在も生活に影響を与えている。(n=7)	A 14.3% B 14.3% C 14.3% D 57.1%	N
3 下記のいずれかの項目により、キリスト教に対する関心を深めたり、卒業後の生活においてキリスト教が影響を与えていると感じることはありますか。影響を与えた項目に○をつけてください。(複数可) (n=21)		
a 教職員との交流	19.00%	
b クリスチャンの学生との交流	4.80%	
c 寮生活	0.00%	
d 学生活動(聖書研究、読書会、クラブ活動など)	0.00%	
e その他(具体的に:)	0.00%	
f 関心を深めたり、影響を受けたと思ったりすることはない。	14.30%	
4 3でa～eに○をつけた方のみお答えください。どのような影響が差し支えない範囲でお答えください。 ()		

図 書 館

Q24 図書館は学習・研究のために必要な環境を構築、提供することに努めています。図書館の施設・設備についてお答えください。		
1 開館日・開館時間が適切だった。(n=19)	A 36.8% B 52.6% C 5.3% D 5.3%	N
2 快適に学習できるスペースが提供されていた。(n=19)	A 63.2% B 21.1% C 15.8% D 0.0%	N
*オスマー図書館が開館した2000年以降に在籍された方のみお答えください。		
3 大学の設備として必要な機能を備えたパソコンが十分に用意されていた。(n=1)	A 0.0% 100.0% C 0.0% D 0.0%	N
Q25 図書館の資料・情報についてお答えください。		
1 十分な質と量の図書や雑誌が備えられていた。(n=16)	A 12.5% B 75.0% C 12.5% D 0.0%	N
*オスマー図書館が開館した2000年以降に在籍された方のみお答えください。		
2 必要なオンライン・データベースが利用できた。(n=1)	A 0.0% 100.0% C 0.0% D 0.0%	N
3 学外から利用できる電子情報が充実していた。(n=2)	A 0.0% 100.0% C 0.0% D 0.0%	N
Q26 図書館のサービス(学習・研究支援)についてお答えください。		
1 貸し出し冊数・期間が十分であった。(n=16)	A 43.8% B 43.8% C 12.5% D 0.0%	N
2 職員によるサポートは役立った。(n=15)	A 46.7% B 46.7% C 6.7% D 0.0%	N

3 利用者の意見を反映する制度が整っていた。(n=14)

A 35.7% B 35.7% C 28.6% D 0.0%

N

大 学 院

Q28 大学院に在籍した方のみお答えください。ICUの大学院では、学部で培った基礎の上に広い視野にたち、教員の個別指導のもと、専攻分野を研究します。以下の項目について、どの程度達成されたかについてお答えください。

1 少人数制により、丁寧かつ柔軟な指導が受けられた。(N=19)

A 78.9% B 15.8% C 5.3% D 0.0%

N

2 一人の研究指導教員だけではなく、多くの教授から指導を受けられる可能性があった。(N=19)

A 42.1% B 42.1% C 15.8% D 0.0%

N

3 研究領域は、人文、社会、自然科学などの伝統的分野から、学際的領域さらには新領域まで選択することが可能だった。(N=18)

A 27.8% B 50.0% C 22.2% D 0.0%

N

4 多様な国籍・背景をもった教職員、学生と学ぶことができた。(N=19)

A 36.8% B 52.6% C 5.3% D 5.3%

N

5 世界に通用する研究成果が上げられた。(N=16)

A 12.5% B 25.0% C 37.5% D 25.0%

N

＊ご協力ありがとうございました。

同窓生アンケート

3) 学部卒業かつ大学院修了

まずはあなた自身についてお答えください。

- 1 ICUに入学した年、および卒業または修了した年を西暦でご記入ください。（例：2003年3月卒業・修了、2003年6月卒業・修了→「2003」とご記入ください。学部と大学院の両方を卒業・修了の場合は両方に記入してください。

学 部	入 学	卒 業
1959以前	9.9%	3.8%
1960-1969	16.0%	17.7%
1970-1979	12.3%	6.3%
1980-1989	35.8%	32.9%
1990-1999	22.2%	27.8%
2000以降	3.7%	11.4%
n=81	n=79	

大学院	入 学	卒 業
1959以前	1.5%	1.4%
1960-1969	19.1%	11.6%
1970-1979	10.3%	13.0%
1980-1989	26.5%	21.7%
1990-1999	32.4%	36.2%
2000以降	10.3%	15.9%
n=68	n=69	

- 2 該当する性別に○をつけてください。(n=82) a 男性 (41.5%) b 女性 (58.5%)

- 3 年齢をお答えください。（具体的に）（ 歳）(N=81)
- | | |
|-------|-------|
| 20歳代 | 8.6% |
| 30歳代 | 22.2% |
| 40歳代 | 32.1% |
| 50歳代 | 12.3% |
| 60歳代 | 16.0% |
| 70歳以上 | 8.6% |

- 4 在籍していた学科・研究科にひとつ○をつけてください。学部で学科間専攻および転科した場合は卒業時の学科に○をつけてください。学部・大学院ともにICUに在籍した場合はそれぞれに○をつけてください。

【学部】(N=81)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| a 人文科学科 (12.3%) | d 語学科 (英語学科) (14.8%) |
| b 社会科学科 (46.9%) | e 教育学科 (9.9%) |
| c 理学科 (自然科学科) (14.8%) | f 国際関係学科 (1.2%) |

【大学院】(N=69)

- | | |
|-------------------|------------------|
| g 教育学研究科 (40.6%) | i 行政学研究科 (36.2%) |
| h 比較文化研究科 (10.1%) | j 理学研究科 (13.0%) |

- 5 学部 に在籍された方にお尋ねします。どの入学試験で入学しましたか。（ひとつ○）(N=81)

- | | |
|--------------------------|--------|
| a 一般入学試験 | 79.00% |
| b 推薦入学試験（キリスト教学校教育同盟加盟校） | 7.40% |
| c ICU高校推薦 | 4.90% |
| d 4月入学帰国生特別入学試験 | 1.20% |
| e 社会人特別入学試験 | 0.00% |
| f 9月入学書類選考 | 7.40% |

- 6 現在の職業の業種をお答えください。(N=82)

- | | | |
|----------------------|----------------|--------------------|
| a 鉱業 (0.0%) | f 卸・小売り (2.4%) | k サービス (3.7%) |
| b 建設業 (0.0%) | g 金融 (4.9%) | l 団体 (4.9%) |
| c 製造 (3.7%) | h 不動産 (0.0%) | m 公務員 (6.1%) |
| d 電気・ガス・エネルギー (0.0%) | i 教育 (36.6%) | n その他 (14.6%) |
| e 運輸・通信 (2.4%) | j マスコミ (1.2%) | o 現在働いていない (19.5%) |

回答方法について

- 1 特に指示のない場合は、達成度、経験値などの程度について、**A～D**のいずれかに○をつけてください。質問項目に該当しない、忘れてしまったなどで答えられない場合は、**N**に○をつけてください。
A 非常にそう思う。 B まあまあそう思う。 C あまりそう思わない。 D 全くそう思わない。
N 答えられない。あてはまらない。
- 2 在学当時は存在しなかった項目についても、効果、影響などがあつたと感じる項目には回答してください。
- 3 ICUにおいて大学院のみに在籍した方は、「理念」「図書館」「大学院」の項目についてお答えください。他の項目についても回答できるのであれば、お答えいただいても構いません。
- 4 大項目ごとのコメント欄にはご意見を自由にお書きください。

理 念

- Q1 ICUは日本で最初のリベラルアーツ大学として発足しました。リベラルアーツ教育の目指すものについて、どの程度実現されたか、お答えください。
- | | | |
|--|--------------------------------|---|
| 1 学問分野の垣根を超えた学びが重視されていた。(n=81) | A 37.0% B 54.3% C 8.6% D 0.0% | N |
| 2 少人数教育を受けることができた。(n=81) | A 79.0% B 18.5% C 2.5% D 0.0% | N |
| 3 自立的・自発的に学べた。(n=80) | A 50.0% B 45.0% C 3.8% D 1.3% | N |
| 4 文系・理系の枠にとらわれず、幅広い知識を身につけることができた。(n=81) | A 22.2% B 56.8% C 19.8% D 1.2% | N |
| 5 創造的な発想力が養われた。(n=78) | A 34.6% B 44.9% C 19.2% D 1.3% | N |
| 6 生涯学び続けるための基礎的能力が涵養された。(n=80) | A 52.5% B 42.5% C 5.0% D 0.0% | N |
| 7 問題を見つける力と解決する力が育まれた。(n=80) | A 41.3% B 38.8% C 18.8% D 1.3% | N |
| 8 真実を探るための批判的思考力が育まれた。(n=81) | A 44.4% B 43.2% C 9.9% D 2.5% | N |
| 9 既成概念にとらわれずに挑戦する柔軟な心を持つことができた。(n=81) | A 44.4% B 44.4% C 9.9% D 1.2% | N |
| 10 深い専門性と広い教養が身についた。(n=81) | A 13.6% B 40.7% C 39.5% D 6.2% | N |
| 11 自己を確立できた。(n=80) | A 32.5% B 48.8% C 17.5% D 1.3% | N |
| 12 社会的責任を踏まえた行動力を身につけることができた。(n=80) | A 25.0% B 48.8% C 21.3% D 5.0% | N |
| 13 学んだことを他者や社会のために役立てようと考えようになった。(n=77) | A 39.0% B 41.6% C 14.3% D 5.2% | N |
| 14 自分とは異なる考え、価値観を持つ他者を受け入れられるようになった。(n=79) | A 44.3% B 45.6% C 8.9% D 1.3% | N |
- Q2 ICUは創立以来、「I」(国際性)、「C」(キリスト教)、「U」(学問)の3つの使命を掲げ、その実現に努めてきました。それぞれについて、どの程度意識していたかをお答えください。
- | | | |
|-------------------|--------------------------------|---|
| 1 国際性への使命(n=80) | A 46.3% B 45.0% C 7.5% D 1.3% | N |
| 2 キリスト教への使命(n=76) | A 19.7% B 34.2% C 40.8% D 5.3% | N |
| 3 学問への使命(n=81) | A 30.9% B 48.1% C 21.0% D 0.0% | N |

カ リ キ ュ ラ ム

- Q3 ICUの一般教育は、総合的な視野に立って批判的に思考する力を身につけることを目的としています。したがって、「専門」の単なる入門講座ではなく、学問を総合的に見渡す視点から他の領域と関連付けて「専門」を深める一助となることを目指しています。一般教育で以下の項目について、どの程度効果があつたかお答えください。
- | | | |
|----------------------------|--------------------------------|---|
| 1 総合的な視野が身についた。(n=79) | A 39.2% B 49.4% C 11.4% D 0.0% | N |
| 2 複数の領域を関連付けることができた。(n=79) | A 27.8% B 54.4% C 16.5% D 1.3% | N |
| 3 専門を深めるのに役立った。(n=78) | A 16.7% B 41.0% C 37.2% D 5.1% | N |
- Q4 全新生必修の英語教育プログラム(現行のELP)、または日本語教育プログラム(現行のJLP)について、どの程度達成されたか、お答えください。(「ELP」は4月入学生対象の英語教育プログラムで、英語で開講される大学の授業が受講できるだけの英語運用能力を身につけることを目的としたもの。「JLP」は、9月入学生対象の日本語教育プログラム)
- | | | |
|---|--------------------------------|---|
| 1 ELP受講の場合は英語/JLP受講の場合は日本語による大学の授業を受講するのに十分な言語運用能力が身についた。(n=72) | A 25.0% B 45.8% C 27.6% D 1.4% | N |
| 2 ELP受講の場合は英語/JLP受講の場合は日本語による大学の授業を積極的に受講するようになった。(n=72) | A 16.7% B 30.6% C 44.4% D 8.3% | N |
- Q5 ICUでは専門を早期に固定せず、専修分野の選択にゆとりをもたせ、カリキュラムを柔軟にすることで総合的に学べるよう配慮しています。以下について、どの程度達成できたか、お答えください。
- | | | |
|---------------------------------|---------------------------------|---|
| 1 複数の学問分野の授業を取ってから専門を決めた。(n=77) | A 24.7% B 33.8% C 28.6% D 13.0% | N |
|---------------------------------|---------------------------------|---|

- 2 広い領域から総合的に学ぶことができた。(n=78) A 28.2% B 52.6% C 19.2% D 0.0% N
- 3 専門分野の知識や考え方が十分に身についた。(n=79) A 15.2% B 40.5% C 34.2% D 10.1% N
- Q6 ICUのカリキュラムは時代に即した多彩な科目を開講するよう配慮されています。在学当時自分が履修したいと思うような科目がどの程度開講されていたか、お答えください。
- 1 履修したいと思う一般教育科目が開講されていた。(n=78) A 25.6% B 62.8% C 10.3% D 1.3% N
- 2 履修したいと思う専門科目が開講されていた。(n=77) A 28.6% B 49.4% C 19.5% D 2.6% N
- Q7 特に思い出深い授業がありますか。それぞれについていずれかを選んでください。書ききれない場合はコメント欄をご利用下さい。
- 1 語学プログラム (n=59) a ない 37.3% b ある 62.7%
- 2 保健体育科目 (n=57) a ない 59.6% b ある 40.4%
- 3 一般教育科目 (n=68) a ない 23.5% b ある 76.5%
- 4 専門科目 (n=65) a ない 21.8% b ある 78.5%
- Q8 「理念」のQ1にあるリベラルアーツ教育の目指すもの全般について、以下の科目が卒業後の生活や仕事にどの程度役立っているかをお答えください。
- 1 語学プログラム(n=79) A 44.3% B 47.0% C 10.1% D 2.5% N
- 2 保健体育科目(n=75) A 2.7% B 33.3% C 52.0% D 12.0% N
- 3 一般教育科目 (n=79) A 34.2% B 50.6% C 12.7% D 2.5% N
- 4 専門科目(n=79) A 35.4% B 43.0% C 16.5% D 5.1% N

成績評価・履修指導・教育改善

- Q9 ICUでは、学生の学習意欲や学習効果を高めるためにさまざまな制度を採用しています。それぞれの項目について、どの程度役立ったか、お答えください。
- 1 GPA制度 (A=4点～E=0点として1単位あたりの平均得点を出す成績評価制度)は学習意欲を高めるのに役立った。(n=77) A 39.0% B 44.2% C 15.6% D 1.3% N
- 2 学期ごとの標準履修単位数 (13 1/3単位) の設定は学習効果を高めるのに役立った。 A 25.0% B 48.7% C 21.1% D 5.3% N
- 3 成績不良者への退学勧告の制度から緊張感をもって学習に臨んだ。(退学勧告を受けなかった方もお答えください。) (n=65) A 16.9% B 38.5% C 30.3% D 13.8% N
- Q10 ICUの教員が果たすべき義務として最も重要とされている以下の項目について、どの程度達成されていると感じたか、お答えください。
- 1 Critical thinkingと考える力を養成する授業を行っていた。(n=77) A 31.2% B 51.9% C 14.3% D 2.6% N
- 2 Critical thinkingを使って研究を行っていた。(n=72) A 27.8% B 40.3% C 30.6% D 1.4% N
- Q11 ICUでは、授業の目的、学習目標、コースの内容、スケジュール、成績の評価方法などを学生と教員が互いに理解しあえるようにシラバス(講義要旨)の配付を促しています。どの程度役立ったか、お答えください。
- 1 シラバスは履修する科目の選択に役立った。(n=68) A 36.8% B 44.1% C 19.1% D 0.0% N
- 2 シラバスは学習計画を立てるのに役立った。(n=68) A 30.9% B 36.8% C 29.4% D 2.9% N
- Q12 授業効果調査に参加したことのある方のみお答え下さい。ICUでの教育全体の質の向上を目的として、全てのコースで学生による授業評価を実施しており、その結果は「授業効果調査」として、学内ネットで公開されています。授業効果調査は以下の項目についてどの程度役立っていたか、お答えください。
- 1 履修する科目の選択(n=19) A 31.6% B 36.8% C 31.6% D 0.0% N
- 2 ICUの教育全体の質向上(n=20) A 45.0% B 25.0% C 30.0% D 0.0% N
- Q13 ICUでは、学問体系の枠組みに学生をはめ込むのではなく、自らの問題意識や関心に応じて自主的に学びながら、主体的・批判的に物事を考えることのできる、独立した自己を形成することを目指しています。それを支援するため、教員アドヴァイザーによる助言を受けられるアドヴァイザー制度が導入されています。以下の項目について、どの程度行われたか、また、どの程度達成されたか、お答えください。(「アドヴァイザー制度」とは、一人ひとりの学生に担当教員がつき、体系的な学びを導き、学生生活のさまざまな相談にものる制度)
- 1 アドヴァイザー制度は学生にとって有益であると感じた。(n=78) A 39.7% B 42.3% C 15.4% D 2.6% N
- 2 アドヴァイザーには会いたい時に会うことができた。(n=74) A 28.4% B 37.8% C 24.3% D 9.5% N
- 3 修学に関する内容について、アドヴァイザーの助言・指導は全般的に役立った。(n=76) A 18.4% B 43.4% C 28.9% D 9.2% N
- 4 学生生活に関する内容について、アドヴァイザーの助言・指導は全般的に役立った。 A 11.1% B 33.3% C 43.1% D 12.5% N
- 5 卒論指導に関して、アドヴァイザーのところに頻繁に相談に行った。(n=78) A 34.6% B 30.8% C 25.6% D 9.0% N
- 6 特定の相談事項がなくても、アドヴァイザーのところを訪れた。(n=72) A 12.5% B 12.5% C 38.9% D 36.1% N

国 際 性

- Q14 英語による開講科目は4月入学生にとっては語学プログラムで習得した英語力を用いて、日英両語で学ぶというバイリンガリズムを実践する場であり、9月入学生にとっては語学プログラムと並行して自らの関心に応じて科目履修ができる場となっています。以下の項目についてどの程度達成されていたか、お答えください。
- 1 英語で開講される科目が十分に用意されていた。(n=75) A 20.0% B 50.7% C 21.3% D 8.0% N
- *1991年以降に入学した4月入学生のみお答えください。
- 2 卒業要件に英語で開講される科目の履修が含まれていることにより、大学の国際性への使命がよく理解できた。(n=23) A 17.4% B 52.2% C 30.4% D 0.0% N
- *9月入学生のみお答えください。
- 3 日本語の学習をしながら英語で開講される科目を履修できることが、卒業までの履修計画に役立った。(n=3) A 33.3% B 0.0% C 66.7% D 0.0% N
- Q15 海外英語研修（SEA）プログラム参加者のみお答えください。SEAプログラムでは異文化体験と生活の中で英語を学ぶことを目的としています。どの程度効果があったか、お答えください。
- 1 英語圏で生活しながら学ぶことで英語が身についた。(n=8) A 37.5% B 62.5% C 0.0% D 0.0% N
- 2 英語のコミュニケーション能力が高まった。(n=8) A 25.0% B 62.5% C 12.5% D 0.0% N
- 3 英語の論文作成能力が高まった。(n=7) A 14.3% B 42.9% C 42.9% D 0.0% N
- 4 異文化への理解が深まった。(n=7) A 28.6% B 71.4% C 0.0% D 0.0% N
- 5 その後の履修計画、留学や進路に関わる計画、考え方に影響があった。(n=7) A 14.3% B 71.4% C 14.3% D 0.0% N
- Q16 ICUは人と学問における国際交流の実現を使命として掲げ、国際社会に貢献できる人材育成に努めています。また、交換留学・海外留学プログラムによって、異なる文化・教育背景をもつ学生がともに学ぶ国際的なキャンパスの実現を目指しています。これらのプログラムの影響がどの程度あったか、お答えください。
- 1 これらのプログラムは国際性への使命を実現するのに十分なものだった。(n=75) A 28.0% B 57.3% C 13.3% D 1.3% N
- 2 キャンパスでの留学生との交流により異文化への理解が深まった。(n=77) A 29.9% B 46.8% C 20.8% D 2.60% N
- *以下の3から6は交換留学・海外留学プログラム参加者のみお答えください。
- 3 留学先の選択肢が十分に用意されていた。(n=13) A 30.8% B 38.5% C 15.4% D 15.4% N
- 4 国際性を身につけることができた。(n=13) A 53.8% B 46.2% C 0.0% D 0.0% N
- 5 その後の履修計画、留学や進路などに関わる計画、考え方に影響があった。(n=13) A 84.6% B 7.7% C 7.7% D 0.0% N
- 6 国際社会に貢献するための準備ができた。(n=13) A 38.5% B 46.2% C 15.4% D 0.0% N

学 生 生 活

- Q17 新入生オリエンテーションは新入生が大学生活全般を円滑に送ることができるように考えられています。この目的は、どの程度達成されたか、お答えください。（「新入生オリエンテーション」は、大学生活を始めるにあたって大学に親しませることを目的とした行事）
- 1 大学生活を始めるにあたって必要な情報を得られた (n=75) A 30.7% B 52.0% C 17.3% D 0.0% N
- 2 オリエンテーションを通じて大学生活において順調なスタートを切ることができた。 A 30.7% B 49.3% C 17.3% D 2.7% N
- Q18 新入生リトリート（新入生と教員の一泊研修）はICUの理念、カリキュラムなどを新入生に深く理解してもらうことや新入生と教員、新入生同士が親しく語り合う中から、ICUの学生としてのアイデンティティを獲得してもらうことを目的としています。参加することによって以下についてどの程度達成されたか、お答えください。
- 1 リトリートにより、ICUに対する理解を深めることができた。(n=67) A 29.9% B 49.3% C 17.9% D 3.0% N
- 2 新入生や教員と親しく語り合うことができた。(n=68) A 44.1% B 45.6% C 7.4% D 2.9% N
- 3 その後の大学生活を送る上で有益だと感じた。(n=68) A 33.8% B 47.1% C 16.2% D 2.9% N
- Q19 キャリア形成・就職支援では、学生が自己の能力、適性や価値観を把握し、卒業後に進むべき道を選択する過程を支援することを目的としています。どの程度支援を受けられたと感じられたか、お答えください。
- 1 自己の能力、適性や価値観を把握する機会があった。(n=62) A 6.5% B 35.5% C 37.1% D 21.0% N
- 2 キャリア形成について考える機会があった。(n=61) A 3.3% B 36.1% C 37.7% D 23.0% N
- 3 就職活動を進めていく上でサポートを得られた。(n=61) A 6.6% B 32.8% C 34.4% D 26.2% N
- Q20 全人的成長を目指すリベラルアーツ教育では、人間形成の場として自主的に運営を行う課外活動への参加が望まれています。課外活動について、お答えください。
- 1 サークル活動などの課外活動を活発におこなった。(n=72) A 51.4% B 31.9% C 11.1% D 5.6% N
- *課外活動を行った方のみお答えください。
- 2 課外活動を行ったことが、人間的成長につながった。(n=64) A 48.4% B 35.9% C 14.1% D 1.6% N

- Q21 学生寮在住経験者のみお答え下さい。ICUでは、寮生活は大学の教育の一部と位置付けられています。そこでは共同生活を通じ、大学の一構成員、一社会人としての責任を自覚し、価値観や文化的背景の異なる他者に対して開かれた人間として成長することが期待されています。以下の項目について、どの程度の効果があったか、お答えください。
- | | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 寮生活が勉学を進める上でプラスになった。(n=23) | A 52.2% B 26.1% C 17.4% D 4.3% | N |
| 2 他の学生と共同生活を行うことが人間的成長につながった。(n=23) | A 78.3% B 17.4% C 0.0% D 4.3% | N |
| 3 外国人留学生と共同生活することで国際的視野が広がった。(n=23) | A 69.6% B 30.4% C 0.0% D 0.0% | N |
| 4 寮に居住することが経済的な支援となった。(n=23) | A 65.2% B 17.4% C 13.0% D 4.3% | N |
- Q22 大学を通じて経済的支援を受けた方のみお答え下さい。ICUでは、勉学意欲のある学生が経済的な理由で学業を妨げられないことがないよう各種の奨学金制度を設けています。どの程度達成されたか、お答えください。
- | | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 学業を継続する上で本学の提供する経済的支援が役立った。(n=28) | A 75.0% B 21.4% C 3.6% D 0.0% | N |
| 2 情報提供は十分にあった。(n=27) | A 63.0% B 25.9% C 11.1% D 0.0% | N |

キ リ ス ト 教

- Q23 キリスト教の影響についてお答えください。
- 1 在学中に参加したことのある大学主催のキリスト教に関わる活動に○を付けてください。(複数可) (n=82)
- | | |
|----------------------------|--------|
| a 授業「キリスト教概論」 | 92.70% |
| b 授業(「キリスト教概論」以外) | 26.80% |
| c キリスト教週間 | 58.50% |
| d 宗務部主催ワークキャンプ、スタディーツアーなど。 | 20.70% |
| e 大学礼拝およびICU教会日曜礼拝 | 63.40% |
| f その他(具体的に:) | 12.20% |
- 2 上記の大学主催のキリスト教活動は卒業後の現在も生活に影響を与えている。(n=79)
- | | |
|---------------------------------|---|
| A 24.1% B 38.0% C 26.6% D 11.4% | N |
|---------------------------------|---|
- 3 下記のいずれかの項目により、キリスト教に対する関心を深めたり、卒業後の生活においてキリスト教が影響を与えていると感じることはありますか。影響を与えた項目に○をつけてください。(複数可) (n=82)
- | | |
|-------------------------------|--------|
| a 教職員との交流 | 42.70% |
| b クリスチャンの学生との交流 | 36.60% |
| c 寮生活 | 11.00% |
| d 学生活動(聖書研究、読書会、クラブ活動など) | 18.30% |
| e その他(具体的に:) | 17.10% |
| f 関心を深めたり、影響を受けたと思ったりすることはない。 | 19.50% |
- 4 3でa～eに○をつけた方のみお答えください。どのような影響か差し支えない範囲でお答えください。
- ()

図 書 館

- Q24 図書館は学習・研究のために必要な環境を構築、提供することに努めています。図書館の施設・設備についてお答えください。
- | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 開館日・開館時間が適切だった。(n=79) | A 51.9% B 35.4% C 11.4% D 1.3% | N |
| 2 快適に学習できるスペースが提供されていた。(n=80) | A 58.8% B 28.8% C 12.5% D 0.0% | N |
- *オスマー図書館が開館した2000年以降に在籍された方のみお答えください。
- | | | |
|---|-------------------------------|---|
| 3 大学の設備として必要な機能を備えたパソコンが十分に用意されていた。(n=14) | A 28.6% B 64.3% C 7.1% D 0.0% | N |
|---|-------------------------------|---|
- Q25 図書館の資料・情報についてお答えください。
- | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 十分な質と量の図書や雑誌が備えられていた。(n=79) | A 34.2% B 45.6% C 17.7% D 2.5% | N |
|-------------------------------|--------------------------------|---|
- *オスマー図書館が開館した2000年以降に在籍された方のみお答えください。
- | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|---|
| 2 必要なオンライン・データベースが利用できた。(n=12) | A 25.0% B 41.7% C 25.0% D 8.3% | N |
| 3 学外から利用できる電子情報が充実していた。(n=13) | A 23.1% B 46.2% C 15.4% D 15.4% | N |
- Q26 図書館のサービス(学習・研究支援)についてお答えください。
- | | | |
|------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 貸し出し冊数・期間が十分であった。(n=79) | A 48.1% B 44.3% C 7.6% D 0.0% | N |
| 2 職員によるサポートは役立った。(n=75) | A 40.0% B 36.0% C 22.7% D 1.3% | N |
| 3 利用者の意見を反映する制度が整っていた。(n=70) | A 18.6% B 44.3% C 34.3% D 2.9% | N |

そ の 他

- Q27 学部での4年間を総括してください。
- | | | |
|------------------------------------|-------------------------------|---|
| 1 自分の人生に大きな影響を与えた重要な4年間であった。(n=78) | A 83.3% B 15.4% C 1.3% D 0.0% | N |
|------------------------------------|-------------------------------|---|

*1の質問でAまたはBを選んだ方のみお答えください。

2 それは主にどの面においてそのように感じましたか。該当するものに○をつけてください。

い。(複数可) (n=82)

a 学問	74.40%
b クラブ・サークル活動	51.20%
c 学生生活・友人とのふれ合い	78.00%
d 教員とのふれ合い	47.60%
e 寮生活	24.40%
f その他(具体的に:)	7.30%

3 ICUで過ごした4年間の学生生活において重要な役割を果たしたと思う施設(環境)に○をつけてください。(複数可) (n=82)

a 本館	68.30%
b 図書館	80.50%
c オスマー図書館	8.50%
d N館(理学館)	12.20%
e ILC(総合学習センター)	6.10%
f D館(ディッフェンドルファー記念館)	42.70%
g 新D館	7.30%
h スポーツ・クラブハウス	30.50%
i 学食	56.10%
j 寮	45.10%
k ICU協会	26.80%
l バカ山(本館前広場)	15.90%
m その他(具体的に:)	13.40%

大 学 院

Q28 大学院に在籍した方のみお答えください。ICUの大学院では、学部で培った基礎の上に広い視野にたち、教員の個別指導のもと、専攻分野を研究します。以下の項目について、どの程度達成されたかについてお答えください。

1 少人数制により、丁寧かつ柔軟な指導が受けられた。(N=76)	A 59.2% B 28.9% C 7.9% D 3.9%	N
2 一人の研究指導教員だけではなく、多くの教授から指導を受けられる可能性があった。(N=75)	A 41.3% B 37.3% C 16.0% D 5.3%	N
3 研究領域は、人文、社会、自然科学などの伝統的分野から、学際的領域さらには新領域まで選択することが可能だった。(N=73)	A 23.3% B 34.2% C 37.0% D 5.5%	N
4 多様な国籍・背景をもった教職員、学生と学ぶことができた。(N=77)	A 19.5% B 55.8% C 18.2% D 6.5%	N
5 世界に通用する研究成果が上げられた。(N=70)	A 7.1% B 20.0% C 42.9% D 30.0%	N

*ご協力ありがとうございました。

2009 年 3 月 卒業生
アンケート

卒業生アンケート

2009年度、ICUでは自己点検・評価を行うことを予定しています。これに伴い、自己点検・評価の一部項目について、評価の客観性を高めることを目的とした卒業生アンケートを実施します。他の調査と重複する質問内容も含まれますが、回答結果は調査ごとに集計しますので、全ての設問に答えてください。

アンケートにおいて個人を特定することはせず、統計資料としてのみ活用します。ご協力をお願いします。

自己点検・評価委員会

特に指示のない場合は、達成度、経験値などの程度について、A～Dのいずれかに○をつけてください。質問項目に該当しない、忘れてしまったなどで答えられない場合は、Nに○をつけてください。

A 非常にそう思う。 B まあまあそう思う。 C あまりそう思わない。 D 全くそう思わない。

N 答えられない。あてはまらない。

回 答 者 自 身 に つ い て

Q1 在籍していた学科にひとつ○をつけてください。転科、学科間専攻の場合は卒業時の学科に○をつけてください。

a H 15.3% b SS 25.5% c NS 10.5% d L 15.6% e E 8.9% f IS 22.8% 無回答 1.3%

理 念

Q2 リベラルアーツ教育の目指すものについて、どの程度実現されたか、お答えください。

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1 学問分野の垣根を超えた学びが重視されていた。 | A 48.1% 44.6% C 4.6% D 1.6% N 1.0% |
| 2 少人数教育を受けることができた。 | 、 61.3% 29.8% C 7.3% D 0.5% N 1.0% |
| 3 自立的・自発的に学べた。 | 、 43.5% 47.0% C 7.8% D 0.5% N 1.0% |
| 4 文系・理系の枠にとらわれず、幅広い知識を身につけることができた。 | 、 30.6% 42.2% 22.6% D 3.2% N 1.3% |
| 5 創造的な発想力が養われた。 | 、 23.9% 52.4% 20.7% D 1.9% N 1.0% |
| 6 生涯学び続けるための基礎的能力が涵養された。 | 、 33.3% 49.2% 14.5% D 1.3% N 1.5% |
| 7 問題を見つける力と解決する力が育まれた。 | 、 29.8% 57.0% 10.5% D 1.6% N 1.0% |
| 8 真実を探るための批判的思考力が育まれた。 | 、 41.1% 47.8% C 8.9% D 0.8% N 1.3% |
| 9 既存概念にとらわれずに挑戦する柔軟な心を持つことができた。 | 、 39.2% 44.9% 13.7% D 0.8% N 1.3% |
| 10 深い専門性と広い教養が身についた。 | 、 15.1% 36.8% 35.2% 11.0% N 1.8% |
| 11 自己を確立できた。 | 、 22.8% 45.4% 22.0% D 5.1% N 4.5% |
| 12 社会的責任を踏まえた行動力を身につけることができた。 | 、 21.0% 48.7% 23.7% D 4.6% N 2.1% |
| 13 学んだことを他者や社会のために役立てようとするようになった。 | 、 30.1% 41.7% 21.0% D 5.1% N 2.1% |
| 14 自分とは異なる考え、価値観を持つ他者を受け入れられるようになった。 | 、 48.9% 40.1% C 7.5% D 0.8% N 2.6% |

Q3 ICUは創立以来、「I」(国際性)、「C」(キリスト教)、「U」(学問)の3つの使命を掲げ、その実現に努めてきました。それぞれについて、どの程度意識していたかをお答えください。

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| 1 | A 34.1% 43.3% 14.8% D 5.1% N 2.6% |
| 2 キリスト教への使命 | A 8.1% 21.8% 40.1% 21.0% N 9.1% |
| 3 学問への使命 | 、 44.1% 41.4% 11.3% D 1.3% N 1.8% |

A 非常にそう思う。 B まあまあそう思う。 C あまりそう思わない。 D 全くそう思わない。

N 答えられない。あてはまらない。

カ リ キ ュ ラ ム

- Q4 ICUの一般教育科目は、総合的な視野に立って批判的に思考する力を身につけることを目的としています。すなわち「専門」の単なる入門講座ではなく、学問を総合的に見渡す視点から他の領域と関連付けて「専門」を深める一助となることを目指しています。一般教育科目で以下の項目について、どの程度効果があったかお答えください。
- 1 総合的な視野が身についた。 36.8% 51.3% C 8.9% D 1.9% N 1.1%
- 2 複数の領域を関連付けることができた。 40.1% 42.7% 12.6% D 3.2% N 1.3%
- 3 専門を深めるのに役立った。 22.3% 33.3% 32.3% 10.2% N 1.8%
- Q5 ELPについて、どの程度達成されたか、お答えください。
- 1 英語による大学の授業を受講するのに十分な言語運用能力が身についた。 25.0% 47.0% 21.0% D 3.8% N 3.2%
- 2 英語による大学の授業を積極的に受講するようになった。 23.4% 29.3% 29.8% 12.9% N 4.5%
- Q6 ICUでは特定の専修分野を早期に固定しないよう専修分野の選択にゆとりをもたせ、カリキュラムを柔軟にすることで総合的に学べるよう配慮しています。以下について、どの程度達成できたか、お答えください。
- 1 複数の学問分野の授業を取ってから専修分野を決めた。 28.8% 37.6% 22.3% D 8.1% N 3.2%
- 2 広い領域から総合的に学ぶことができた。 34.1% 49.2% 12.1% D 2.7% N 1.9%
- 3 専門分野の知識や考え方が十分に身についた。 18.0% 42.5% 32.3% D 5.1% N 2.2%
- Q7 ICUのカリキュラムはその時代に即した多彩な科目を開講するよう配慮されています。自分が履修したいと思うような科目がどの程度開講されていたか、お答えください。
- 1 履修したいと思う一般教育科目が開講されていた。 25.0% 50.8% 16.1% D 4.6% N 3.5%
- 2 履修したいと思う専門科目が開講されていた。 32.3% 47.8% 13.7% D 3.5% N 2.7%

成績評価・履修指導・教育改善

- Q8 学生の学習意欲や学習効果を高めるための制度として、どの程度役立ったか、お答えください。
- 1 GPA制度は学習意欲を高めるのに役立った。 29.0% 40.1% 21.5% D 7.0% N 2.4%
- 2 学期ごとの標準履修単位数（13 1/3単位）の設定は学習効果を高めるのに役立った。 16.9% 38.2% 30.9% 10.5% N 3.5%
- 3 成績不良者への退学勧告の制度から緊張感をもって学習に臨んだ。（退学勧告を受けなかった方もお答えください。） 12.6% 24.7% 30.4% 20.2% N 12.1%
- Q9 シラバスがどの程度役立ったか、お答えください。
- 1 シラバスは履修する科目の選択に役立った。 48.1% 37.6% C 9.7% D 3.2% N 1.4%
- 2 シラバスは学習計画を立てるのに役立った。 42.2% 43.5% C 9.4% D 3.5% N 1.3%
- Q10 ICUでの教育全体の質の向上を目的として実施している「授業効果調査」がどの程度役立っていたか、お答えください。
- 1 履修する科目の選択 21.2% 35.8% 28.2% D 8.9% N 5.9%
- 2 ICUの教育全体の質向上 16.1% 40.1% 28.8% D 9.7% N 5.3%

A 非常にそう思う。	B まあまあそう思う。	C あまりそう思わない。	D 全くそう思わない。
N 答えられない。あてはまらない。			

- Q11 ICUでは、学問体系の枠組みに学生をはめ込むのではなく、自らの問題意識や関心に応じて自主的に学びながら、主体的・批判的に物事を考えることのできる、独立した自己を形成することを目指しています。その支援制度として教員アドヴァイザー制度がもうけられています。どの程度行われていたか、また、どの程度達成されたか、お答えください。
- 1 アドヴァイザー制度は学生にとって有益であると感じた。 39.0% 41.7% 13.2% D 4.6% N 1.6%
- 2 アドヴァイザーには会いたい時に会うことができた。 22.0% 41.1% 25.5% D 6.7% N 4.6%
- 3 修学に関する内容について、アドヴァイザーの助言・指導は全般的に役立った。 23.9% 43.3% 21.0% D 8.6% N 3.3%

- 4 学生生活に関する内容について、アドヴァイザーの助言・指導は全般的に役立った。 (21.0% 36.0% 24.7%) 12.6% N 5.6%
- 5 卒論指導に関して、アドヴァイザーのところに頻繁に相談に行った。 (30.9% 28.2% 23.9%) 13.4% N 3.5%
- 6 特定の相談事項がなくても、アドヴァイザーのところを訪れた。 (10.5% 11.8% 27.7%) 39.2% N 10.7%

学 生 生 活

- Q12 新入生オリエンテーションは新入生が大学生活全般を円滑に送ることができるように考えられています。この目的は、どの程度達成されたか、お答えください。
- 1 大学生活を始めるにあたって必要な情報を得られた。 (16.4% 49.5% 22.3%) D 7.8% N 4.0%
- 2 オリエンテーションを通じて大学生活において順調なスタートを切ることができた。 (14.5% 50.0% 21.2%) D 8.9% N 5.4%
- Q13 新入生リトリートはICUの理念、カリキュラムなどを新入生に深く理解してもらうことや新入生と教員、新入生同士が親しく語り合う中から、ICUの学生としてのアイデンティティを獲得してもらうことを目的としています。参加することによって以下についてどの程度達成されたか、お答えください。
- 1 リトリートにより、ICUに対する理解を深めることができた。 (14.2% 39.5% 28.5%) 10.5% N 7.2%
- 2 新入生や教員と親しく語り合うことができた。 (27.7% 39.5% 19.6%) D 6.2% N 7.0%
- 3 その後の大学生活を送る上で有益だと感じた。 (19.9% 33.3% 26.1%) 12.9% N 7.8%
- Q14 キャリア形成・就職支援では、学生が自己の能力、適性や価値観を把握し、卒業後に進むべき道を選択する過程を支援することを目的としています。どの程度支援を受けられたと感じられたか、お答えください。
- 1 自己の能力、適性や価値観を把握する機会があった。 (18.3% 37.9% 20.2%) D 8.6% N 15.0%
- 2 キャリア形成について考える機会があった。 (19.1% 38.4% 19.9%) D 8.3% N 14.2%
- 3 就職活動を進めていく上でサポートを得られた。 (22.6% 34.4% 16.4%) D 7.0% N 19.6%
- Q15 全人的成長を目指すリベラルアーツ教育では、人間形成の場として自主的に運営を行う課外活動への参加が望まれています。課外活動について、お答えください。
- 1 サークル活動などの課外活動を活発におこなった。 (52.7% 24.2% C 9.9% D 5.6% N 7.5%
- *課外活動を行った方のみお答えください。
- 2 課外活動を行ったことが、人間的成長につながった。 (57.0% 19.9% C 4.0% D 1.1% N 18.0%

A 非常にそう思う。 B まあまあそう思う。 C あまりそう思わない。 D 全くそう思わない。

N 答えられない。あてはまらない。

図 書 館

- Q16 図書館は学習・研究のために必要な環境を構築、提供することに努めています。図書館の施設・設備についてお答えください。
- 1 開館日・開館時間が適切だった。 (19.1% 31.7% 30.4%) 15.6% N 3.2%
- 2 快適に学習できるスペースが提供されていた。 (43.3% 40.9% C 9.9% D 3.8% N 2.2%
- 3 大学の設備として必要な機能を備えたパソコンが十分に用意されていた。 (30.4% 34.7% 20.2%) 12.1% N 2.6%
- Q17 図書館の資料・情報についてお答えください。
- 1 十分な質と量の図書や雑誌が備えられていた。 (40.6% 42.2% 11.8%) D 3.5% N 1.8%
- 2 必要なオンライン・データベースが利用できた。 (42.7% 44.9% C 9.1% D 1.6% N 1.6%
- 3 学外から利用できる電子情報が充実していた。 (31.7% 41.9% 19.6%) D 3.2% N 3.5%
- Q18 図書館のサービス（学習・研究支援）についてお答えください。
- 1 貸し出し冊数・期間が十分であった。 (44.6% 38.4% 11.3%) D 4.3% N 1.3%
- 2 職員によるサポートは役立った。 (34.4% 44.4% 15.3%) D 2.7% N 3.2%

3 利用者の意見を反映する制度が整っていた。

、 20.4%、 41.7%、 25.0% D 4.8% N 8.0%

そ の 他

Q19 学生生活において重要な役割を果たしたと思う施設（環境）に○をつけてください。（複数可）

a 本館 (64.5%) b 図書館 (83.3%) c オスマー図書館 (78.2%) d N館（理学館）(12.4%) e ILC（総合学習センター）
f D館 (17.7%) g 新D館 (56.5%) h スポーツ・クラブハウス (9.1%) i 学食 (51.9%) j 寮 (32.0%) k ICU教会（
l パカ山 (30.9%) m その他 (5.4%)

＊ご協力ありがとうございました。